

【岩成台中学校】小中学校の適正な規模等に関する意見交換会 議事録

1 開催日時

令和7年9月26日（金）午後6時30分～午後8時

2 開催場所

岩成台中学校 体育館

3 参加者数 6名

【事務局】

春日井市教育委員会		部長	森本 邦博
〃	学校教育課	主幹	梶田 傑
〃	〃	指導主事	田中 秀治
〃	〃	課長補佐	深見 健司
〃	〃	主査	安田 和志
〃	〃	主事	杉山 太一

4 議題

岩成台中学校区における小中学校の適正規模及び適正配置に向けた検討について

5 会議資料

小中学校の適正規模及び適正配置に向けた検討について（岩成台中学校）

午後 6 時 30 分 開会

1 開会

教育部長あいさつ

2 議題

- (1) 岩成台中学校区における小中学校の適正規模及び適正配置に向けた検討について

【事務局】

<本市の基本的な考え方とこれまでの取組について>

- ・児童生徒数は全国的な少子化の進展に伴い減少を続けており、本市においても、同様に減少していくと推定される。子どもたちにとってより良い教育環境を実現するために、学校の適正規模や適正配置について検討を進める必要がある。
- ・学校規模の区分について、本市では今年 2 月に「小学校・中学校の適正規模の基本的な考え方」を策定し、その中で、規模が小さい学校について、クラス替えができるかどうかの視点から学校規模の区分を設けた。
- ・クラス替えが可能であれば、児童生徒同士の間関係に配慮した学級編成ができることや、集団の中で社会性を身に付けたりできるなど、子どもたちにとって多くのメリットがあることから、本市では、小学校、中学校ともに 1 学年に 2 学級以上あることが必要であると考えている。
- ・どの学年もクラス替えができない「過小規模校」や一部の学年でクラス替えができない「小規模校」について、過小規模校を優先に、適正規模の確保に努めるように検討することとしており、「坂下」「藤山台」「高森台」「石尾台」「岩成台」の 5 つの中学校区にある学校を最優先に検討を進めている。
- ・これまでの取組として、令和 7 年 4 月から 5 月にかけて、対象校区の小中学校 17 校の P T A 役員の皆様への説明と意見交換を実施した。その後 5 月から 6 月にかけて児童生徒やその保護者の皆を対象に、6 月から 7 月にかけて、地域にお住まいの方を対象にアンケートを実施した。

<児童生徒数推計について>（資料 1 ページ）

- ・昭和 60 年度から令和 19 年度までの、岩成台中学校の生徒数の推移は、昭和 62 年度の 692 人をピークに、令和 19 年度では 78.6%減少の 148 人と推計される。

- ・岩成台中学校は、今年度、生徒数 235 人、7 学級で、学校規模は、小規模だが全学年でクラス替えができる「やや小規模」である。今後は、生徒数及び学級数は減少し、令和 22 年度では全学年でクラス替えができない「過小規模」であると推定される。
- ・岩成台小学校は、今年度、児童数 201 人、8 学級で、学校規模は、クラス替えができない学年のある「小規模」である。今後は、児童数、学級数ともに減少し、令和 11 年度から「過小規模」になると推定される。
- ・岩成台西小学校は、今年度、児童数 295 人、12 学級で、学校規模は「適正規模」である。今後は、児童数、学級数ともに減少し、令和 12 年度から「小規模」になり、令和 22 年度では「過小規模」であると推定される。

<アンケート結果について>（資料 2～5 ページ）

- ・「1 学年に 2 学級以上となるように、学校の適正な規模や配置に市が取り組むことについて」の質問では、岩成台中学校では、「賛成」の方の割合が保護者で 61.8% となっている。地域の方のアンケート結果は、小学校単位で取りまとめを行っていることから、中学校区内の小学校を集計した「全体」を見ると 71.6%の方が賛成と回答している。
「反対」の方は、保護者で 10.6%、地域の方で 19.4%である。反対の理由として、保護者の方は「登下校の時間や方法」を心配する方が多く、地域の方は「環境変化による子どもたちへの影響」や「緊急時の避難場所が遠くなる可能性」を心配している。
- ・先ほどの質問に対して「賛成」と回答した方のうち、「ご自分の子どもが通う学校、またはお住まいの地域の学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて」では、岩成台中学校、全体ともに「賛成」の割合が、保護者、地域の方のいずれも高い比率となっている。賛成の理由として、保護者の方は「子どもの人間関係に良い影響を与えるから」や「学校行事や部活動が充実するから」を選んだ方が多く、地域の方は「子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れるようになるから」と多くの方が考えている。
- ・学級数については、保護者の方、児童生徒ともに 1 学年に複数学級が望ましいと考えている方が多く、クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができると考えている。岩成台中学校では、保護者の方の 99.4%、生徒の 98.9%が複数学級を望ましいと考えている。岩成台中学校区では、中学校、小学校ともに複数学級を希望する割合が高くなっている。

- ・「学校生活において重要と思うこと」では、児童生徒は、「クラス替えができて、新しい友達がたくさんできること」や「体育大会などの行事でクラスに活気があること」が大事だと考えている。

地域の方は、「多くの子どもたちによる人間関係の広がり」や「子どもたちの登下校」が重要と考えている。

- ・「魅力ある学校づくりを進めるため、学校の規模や配置を見直す場合に重要と思うこと」では、保護者の方は、「子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育」や「子どもの人間関係に広がりがあること」が重要と考えている。

地域の方は、「子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れること」をとっても多くの方が重要と考えている。

- ・「学校の適正規模等の取組において心配なこと」では、保護者の方は、登下校に関して心配と考えており、登下校については、安全性や時間が重要と考えている。

＜本市の考え方について＞（資料6 ページ）

- ・「児童生徒数推計」から、令和22年度では、中学校区内の全ての小中学校が、全学年で学級数が1学級の「過小規模」とであると推定される。
- ・「アンケート結果」からは、学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて、賛成意見が多く、複数学級を希望する意見が多い。保護者は、子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育や子どもの人間関係に広がりがあること、児童生徒は、クラス替えで新しい友達がたくさんできること、地域の方は、子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れることが重要と考えている。一方で、学校の規模や配置を見直す場合に、多くの方が登下校に関し心配している。
- ・「地域の特性」として、ニュータウン地区内で、岩成台中学校区は藤山台中学校区、高森台中学校区と接しており、岩成台中学校は、直線距離で、藤山台中学校から約0.9 km、高森台中学校から約2.3 kmの距離に位置している。
- ・「児童生徒数推計」「アンケート結果」「地域の特性」を踏まえ、本市としては、岩成台中学校区の小中学校が適正な規模や配置となるように、具体的な検討を進めていきたいと考えている。

また、検討にあたっては、次のことに留意をする。

- 1 岩成台中学校については、「過小規模」となると推定されること、また、小学校については、各小学校の児童数推計から、児童数の減少が今後も続くと推計されることから、隣接する中学校区と合わせた検討も視野に入れる必要がある。
- 2 登下校の安全性や時間を心配する方が多いことから、バスの利用など通学手段についても検討する必要がある。

3 意見交換

【質問 1】

現在の岩成台中学校には部活の数が少なく、所属している子どもの数も少ない。地域クラブに所属する子が増えて、部活に入る子が少なくなり部活が成り立たない。子どもの数を増やすことを考え、中学校区をまとめてほしい。

【事務局】

岩成台中学校区は、このままの児童生徒数推計でいくと中学校区の中だけでは適正規模の確保ができなくなると推計されます。今後、近隣の中学校区と合わせて検討する必要があると考えます。

【質問 2】

岩成台中学校と藤山台中学校は距離も近いし、統合すべきだと思う。部活動を盛り上げるためにも一定規模の子どもの数が必要ではないか。

【事務局】

児童生徒数が減少すると、過去のように盛んな部活動ができなくなると思います。子どもたちの活動の場を確保するためにも、市では一定規模の学校が必要と考えており、生徒数が増えれば、教員数も増え、盛んな部活動ができるのではないかと考えます。

【質問 3】

地域の方へのアンケートの実施方法を確認したい。対象の世帯数、回答数はどのくらいあったのか。

【事務局】

地域アンケートは、インターネットによるアンケートで実施し、7月の広報配布に合わせて、案内チラシを坂下、藤山台、高森台、石尾台、岩成台の5中学校区で約25,000世帯に配布しました。また、市の公式LINEやホームページでお知らせし、町内会未加入世帯への対応をしています。回答数は、岩成台小学校区にお住まいの方で34人、岩成台西小学校区にお住まいの方で33人であり、中学校区で見ると合計67人の方から回答をいただいています。

【質問 4】

令和22年度の推計値の算出根拠を確認したい。

【事務局】

春日井市まち・ひと・しごと創生総合戦略の人口ビジョンの数値から、各地域の推計値を算出しています。

【質問 5】

学校の話も大事だが、子育て世帯を増やさないといけない。人口が減っていく中、市全体で対策を考えないといけない。

【事務局】

市ニュータウン創生課では、ニュータウン地区の活性化を目的に様々な施策に取り組んでいます。また、UR都市機構も若い人を呼び込む施策を進めており、市と協力して取組を進めているところです。

今後、子どもの数が少なくなっていくという状況の中で、市としては、ニュータウンの活性化と、子どもの教育環境の向上の両方の取組を並行して進めていきたいと考えています。

【質問 6】

ニュータウンに住むだけではなく、人が集まるお店や働く場所の誘致も考えてほしい。

【事務局】

春日井市は交通の便からみても、利便性の高いまちだと言えます。今後も企業誘致の取組などを進めていきたいと考えています。

【質問 7】

アンケートの結果について、市はどう考えているか。回答されなかった人の意見はどうなるのか。

【事務局】

地域の方の回答率は低かったですが、保護者の方からは多くの回答をいただきました。アンケート結果も参考にし、これから皆さまと協議していきたいと考えています。今後も意見交換会などの機会を設け、多くの方から意見をいただきたいと考えています。

【質問 8】

今後のスケジュールを知りたい。

【事務局】

スケジュールはまだ決まっていません。この地区の方向性について住民の皆さまと市との合意形成ができるタイミングによって、今後の進め方が変わってきます。

仮に統合と決まった場合、学校をリニューアルする場合や、新しい学校をつくる場合など工事が必要になれば、5年程度の期間が必要になると考えます。既存の学校を使用するのであれば、より早い期間で取組が進むと考えます。

【質問 9】

この学校の卒業生としては、もし学校がなくなるのであれば寂しい気持ちがある。統合するとなったら、跡地はどうなるのか、跡地の利活用の方法を示してから、統合を行うことになるのか。

【事務局】

小学校の体育館は、避難所や投票所としての機能もあり検討する必要がありますが、一番に考えることは子どもの教育環境の向上だと考えています。

仮に統合するのであれば、跡地の問題は統合後の課題として、別に市全体で検討していきます。

【質問 10】

藤山台小学校を統合した際は、反対意見が多かったが、跡地の利活用について説明をして納得されたという話を聞いた。今回は跡地の検討は統合後に決める話なのか。

【事務局】

学校の適正規模等の目的は、子どもの教育環境の向上であり、跡地の問題は別に検討していきたいと考えています。

【質問 11】

藤山台小学校では5年くらいかけて統合されたと理解しているが、岩成台地区ではどうなるのか。

【事務局】

藤山台小学校は3校を統合してできた学校で、検討から6年程度かけて取組を進めました。当時は、地域の方や学識経験者などで組織された会議から統合すべきという答申があり、それを受けて、統合することを前提にして地域で説明を行っています。

今回は藤山台小統合の時と進め方が違いますが、意見交換会の後に協議会を立ち上げたいと考えています。仮に統合すると決まったとして、既存の学校を使用する場合、リニューアルする場合、新しい学校をつくる場合で期間は変わってきます。新しい学校をつくる場合やリニューアルする場合では、設計と工事の期間で5年程度必要となります。

【質問 12】

子どもの数が減っている中、学級数が減って、クラス編成ができないのは学校としては健全な状態ではないと考える。運動会などの行事も盛り上がらない。

取組に必要な時間を考えると、今回の検討に取り掛かるのが遅いくらいだと思う。

市は丁寧な説明を心掛けていると思う。今後、住民からは様々な意見が出ると思うが、個々の意見ではなく、全体を見て進めていくようにお願いしたい。踏み込んだ検討をお願いしたい。

【事務局】

スピード感を持って検討を進めていきたいと考えます。

【質問 13】

周りの保護者に説明会に行くか尋ねたところ、行かない人が多かった。その理由として、「開催時間が忙しい時間帯だから行けない」ではなく、「統合に関して答えが出ているだろうから、参加しても仕方がない」という意見が多かった。多くの方が意見交換会に参加できる工夫を考えてほしい。

【事務局】

年内に中学校区単位で2回目の意見交換会の開催を予定しています。市からの情報発信もしっかり行いますが、皆さまからも意見交換会への参加を呼びかけていたきたいです。

【質問 14】

地域アンケートの回答が少なかったとのことだが、高齢者などにはQRコードを読み込むことが難しい方も多いのではないかな。

【事務局】

回答の総数は少なかったですが、回答した方の約44%の方が61歳以上であり、高齢者にスマートフォンの操作ができないとは言えないと考えています。

インターネットが利用できない方には、電話で聞き取りを実施したケースもありました。今後、アンケートを実施するときは、より多くの方に答えていただけるよう工夫したいと考えています。

【質問 15】（意見）

地域クラブの運営について、保護者が負担する費用の面など、しっかりと検討してほしい。

4 今後の進め方について

【事務局】

- ・まずは、本日開催している意見交換会を岩成台中学校区の各小中学校で開催し、その際にいただいたご意見などを取りまとめた上で、次は岩成台中学校区全体の単位で、年内に2回目の意見交換会を開催したいと考えている。
- ・その後、岩成台中学校区で保護者や地域の代表の方、また、学校関係者などで構成する、学校づくりを検討するための組織を立ち上げ、学校の適正規模や適正配置について、具体的な検討を行っていきたいと考えている。
- ・次回の意見交換会の日程は、市ホームページでお知らせするほか、保護者の方へはHome&Schoolで、地域の皆様へは回覧板でお知らせする。

5 閉会

午後8時 閉会